

1、はじめに

皆さんこんにちは。吹田新選会、足立将一、通告に従いまして会派を代表して質問させていただきます。

今議会から吹田市議会の議場に国旗、市旗が掲げられることとなりました。条例設置から1年、議会運営委員会での真摯な議論に感謝申し上げるとともに、国旗及び市旗が議場に掲げられたことを大変喜ばしく思います。

我が国旗の中央に点ぜる赤き丸形は、もはや帝国を封ぜし赤き封ろうのごとくに見ゆることなく、将来において事実上、その本来の意匠たる上る朝日のとうとき記章として、世界における文明諸国の間に伍して、前方にかつ上方に動かんとする。

これは維新直後の明治4年、岩倉使節団の一員としてサンフランシスコを訪れた当時31歳の伊藤博文が300名もの貴賓を前に英語で行った演説の一部で、不平等条約に苦しむ日本が、今後、文明諸国と対等につき合うため、国家の体制を整えるというビジョンを示した際の締め言葉です。

帝国主義がばっこする当時の世界情勢において、清を初め他のアジア諸国が西欧諸国に次々と侵略される中、数多くのとうとい犠牲を出しながらも維新を達成し、国家の独立を維持するため、近代化を押し進め、西欧列強と肩を並べようとする先人の気概を感じ、あまたの先人たちの仰いだ国旗を見るたびにさまざまな思いがよぎり、胸が震える思いがいたします。

我が国は、日本最古の国家的編さんの歴史書である古事記によれば、紀元前660年、神武天皇御即位より先月の2月11日で建国2673年を迎えました。

さきの大戦での敗戦による7年にもわたるアメリカの占領期間を除き、国家の独立を保つことができたのは、有名無名の無数の先人の血のにじむような努力によるものであり、我々はその先人たちの努力によって積み上げられた歴史の最先端に立っているわけです。

我々の使命は、先人たちから受け継いだこの日本をさらに発展させ、次の世代に引き渡していくこと、このことにほかなりません。

国家においてそうであるように、この吹田市においても同様であると考えます。この吹田市の伝統、文化、景観を守り、魅力をより引き出し、発展させることによって、住民の福祉の向上を図るとともに、吹田市民がこの吹田市を誇りに思う気風づくりや愛するまちづくりを支えることこそが、私どもの仕事です。

この国旗及び市旗が掲げられたことによって、改めて私どもが日本、そして吹田市を背負って仕事をさせていただけることに感謝するとともに、そのことに対する矜持を持って質問させていただきます。